



令和5年度 第30号  
令和5年10月13日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

明日は運動会！プロジェクト活動は、自分以外の誰かのために。



※各プロジェクトのスナップです。ぜひ、お子さんに何の仕事がんばったのか聞いてあげてください。(校長)

明日はいよいよ運動会です。子どもたちもさぞかし、楽しみにしていることと思います。しかしながら、本荘小の運動会は単なる行事消化のための運動会ではありません。1年生から6年生までが何かしらの役割をもって運動会の準備をします。全校の児童は、各プロジェクトチームに分かれ、チームとして活動を進めていくのです。

当然、チームリーダーは6年生になります。1年生にもできることを考えなければなりません。そこに必要なものは何でしょうか。ずばり、それは「相手意識」です。全ての教育活動において、何かしらのコミュニケーションを行う場合に、重要なのはこの意識なのです。

日常的に本荘小学校では、校長が率先して「自分以外の誰かのことを考えるのですよ」と指導をしています。しかしながら、これが一番難しいことでもあります。なぜなら、人は自分のことを一番に考えがちだからです。自分のことを一番に考えなければならない場面も当然あります。しかし、一日の大半は、自分以外の誰かと過ごす私たちは「他者」を「理解」していくことが大事なのです。そのことが日常化されたときに、「自分はみんなから大切にされている存在なのだ」という自己満足でない、自己肯定感が育つのだと考えます。(裏面に続きます)

本荘小の運動会プロジェクト、縦割り班活動、各学級のトークタイム、そしてほめ日記などは、子どもたちの自尊感情を高め、自己肯定感を育てる取組みです。そこでは、「相手意識」「他者理解、他者受容」が基盤となっているのです。

プロジェクトの時間を見ていると全学年で、徒競走用の表彰メダルをつくったり、準備のために草取りをしたりしている姿を見ます。心がほんわかした校長先生でした。(校長)

「子どもらの 心でつなぐ 運動会」(字余り〜♪)

### 校長先生の虫眼鏡 「教頭先生の『おじゃまします』(笑)」



本校の植村教頭先生の授業訪問です。教頭職は大変忙しいのですが、その合間を縫って、植村教頭先生は各教室を回ってくれます。これは2年生をお邪魔した時の写真です。その穏やかな表情が、子どもへのやさしさ、配慮を伝えてくれます。